

高等学校 令和5年度（1学年用） 教科 外国語 科目 論理・表現 I

教科： 外国語

科目： 論理・表現 I

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 1 組～ 6 組

教科担当者： （1組：柳） （2組：福見） （3組：柳） （4組：高島） （5組：柳） （6組：福見）

使用教科書： （BIG DIPPER Logic and Expression I（数研出版））

教科 外国語

の目標：

- 【知識及び技能】 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを活用して適切に表現したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

科目 論理・表現 I

の目標：

| 【知識及び技能】 | 【思考力、判断力、表現力等】 | 【学びに向かう力、人間性等】 |
|--|---|---|
| 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。 | 外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。 | 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 |

| 単元の具体的な指導目標 | 指導項目・内容 | 領域 | | | | | 評価規準 | 知 | 思 | 態 | 配 当 時 数 |
|--|---|--------|---|------------|------------|---|------|---|---|---|------------------|
| | | 聞 | 読 | 話 （「や」） | 話 （「発」） | 書 | | | | | |
| <BIG DIPPER> 1: はじめに① 2: はじめに② 3: はじめに③ 4: My Friends [知]英文の基本構造等の働きの理解を深め、技能を身に付ける。 [思]英文の基本構造等を用いて、友達に関わる会話の場面で適切に表現することができる。 [態]自己の学習の調整を行うとともに、主体的・自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。 | ・内容に関するQ&A ・ロールプレイング ・文法に関する問題演習 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | [知]行動観察・ノート観察 [思]行動観察・ノート観察 [態]行動観察・ノート観察 | | | | | | | | | | |
| <COMET> pp. 26-39 [知]範囲の単語の働きを理解し、書くことができる。 [態]範囲の単語を使って表現する態度を養う。 | ・単語テスト | | | | | ○ | | ○ | ○ | | 2 |
| 定期考査 | | | | | | | | ○ | ○ | | 1 |
| <BIG DIPPER> 5: My Family 6: Pastime 7: My Town 8: Our Teachers [知]進行形・未来表現・完了形・助動詞の働きの理解を深め、技能を身に付ける。 [思]進行形・未来表現・完了形・助動詞を用いて、家族や町等に関する会話の場面で適切に表現することができる。 [態]自己の学習の調整を行うとともに | ・内容に関するQ&A ・ロールプレイング ・文法に関する問題演習 | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | 6 |
| | [知]範囲の単語の働きを理解し、書くことができる。 [態]範囲の単語を使って表現する態度を養う。 | ・単語テスト | | | | | ○ | | ○ | ○ | |
| 定期考査 | | | | | | | | ○ | ○ | | 1 |

1
学
期

